

# 静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会  
会報 第39号  
平成7年6月23日発行  
編集人 上杉重吉

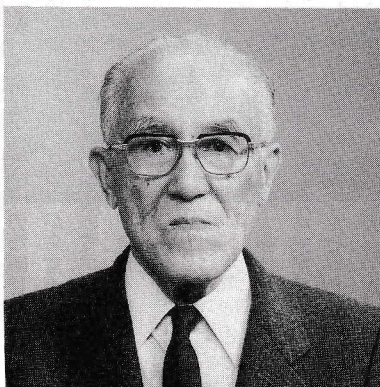
## 思い出すこと

45期 柏木千秋

私が旧制静中に在学していたのは、三年の二学期から卒業するまでの二年半ですが、私は三人兄弟の末弟で長兄も次兄も静中におりましたので、三人の在学年数を合計すると七、八年になり、静中とは深いご縁があるわけですね。

静中が甲子園で優勝（一九二六年）したのは私が転校して来る前の年でしたが、私が在学していた当時も甲子園には毎年出ていたように思います。

静中時代の思い出としては、伊佐芹精太先生という立派な国漢の先生がおられたことでした。当時



れないような法律で処分されたりした時代だったのですが、先生は「真面目で優秀な学生が、犠牲になっている」といって、当時の風

潮を激しく批判しておられたのが今でも記憶に残っております。

私は旧制静高を経て東大法学部に進み、在学中に司法試験に合格したので、父の跡を継いで裁判官の道を歩むことにしたのですが、判事（今なら判事補）としての最初の任地が神戸地方裁判所でした。そこでいわゆるチブス饅頭事件―女医が自分を裏切った医師にチブス菌入りの饅頭を送り数名の被害者が出たという、当時かなりセンセーショナルな事件―に左陪席として立ち会った思い出があります。

神戸、大阪の地裁に三年ほどいて昭和十六年末に東京地裁に戻ったのですが、神戸時代は灘区に、大阪時代は甲子園におりましたので、今度の阪神震災に関連して私の良く知っている地名が新聞などによく出て来て、心が痛みます。東京に移ってから間もなく空襲が始まり、裁判所、司法省（法務

省の前身）関係の建物は次々と焼失し、残ったのは今、日比谷公園寄りにある庁舎（当時の東京民事地方裁判所）のほかに刑務所だけということになりました。そこで私のように千葉、茨城方面に疎開していた者は小菅の刑務所で法廷を開くことになり、天皇の終戦の放送も小菅の刑務所長室のラジオで聞きました。

実は、その前日、「明日正午に天皇の放送がある」ということで、多分終戦だろうと思っていたのですが、そのうち空襲警報があったので、さては徹底抗戦かなどと素人なりに考えておりました。翌朝、乗換えの柏駅で日立製作所の幹部らしい人に尋ねたら、「あれは終戦ですよ、うちの会社ではもう数日前から仕事（軍需品の製造）をしておりません」と言われ、ようやく安心したというようないふもありました。

終戦後も主として司法省・法務省あたりで立法関係の仕事をしておりましたが、昭和二十三年に、文化国家の建設とかいうことで、旧帝大のうち理科系の学部しかなかった北大、阪大、名大にも文科系の学部を設けることになり、東大の團藤先生のご推薦で名大の法学部に移ることになりました。

そして、停年まで名大におりましたが、退官後は弁護士のかた、慶応大学はじめいくつかの大学におりましたから、結局、裁判官、大学教授、弁護士と、法律畑を歩いて来たことになるわけです。しかし、格別法律が好きというのではなく、今度生まれ変わったら自然科学の方に進みたいと思っております。

それにしても近ごろ色々難しい事件が世間を騒がせています。私には政治などを論ずる資格も能力もありませんが、ともかくも「平和」であって欲しいと思います。これは一個の人間として当然の希望ではないでしょうか。

（一九九五・三・二九）

●柏木千秋氏は名古屋大学名誉教授。一九一一年（明四四）鳥取生まれ。静中、旧制静高を経て一九三七年（昭一二）東大法学部を卒業。東京地方裁判所判事から一九四九年（昭二四）名古屋大学法学部教授に転官、一九七五年（昭五〇）停年退官。その後筑波大、慶応大教授などを経て、一九九三年（平成五）創価大学教授を退職。現在、弁護士のかたの著述。一九八四年（昭五九）勲二等旭日重光章を受章、趣味は洋楽鑑賞。家庭菜園。

# 同期会など

## 四三期

昭和二十一年八月三十日に第一回のささやかなクラス会を静岡の青森屋で開いたが、正に戦後の混乱期であった。次第に会員に連絡がとれ外地からの引揚者も出席するようになってきた。

その後、幹事の努力で四三会の会合も次第に盛大になった。

母校も長谷町に再建されて、昭和二十八年十月三日に創立七十五周年記念大会が母校で開催されたのに併せて四三会も開いた。

昭和三十六年六月十七日に四三会の第四十三回目の大会を記念して、伊豆山の潮音閣で恩師十名（大野日三・岡文雄・金沢宏・佐藤時次・沢本兼治・高原真重・苦米地早苗・中野亨・中村藤平・西田重雄）をお迎えして総員で四十三名の会合となり、四三会の大会に錦上花をそえることができた。

第五十回大会は昭和四十年十一月二十七日熱海魚見崎のみのや旅館で開かれ、三十三名が出席した。

昭和四十三年四月三日、日本平望岳荘で卒業四十周年を記念して集る時刻も午後四時三十分と指定

して大会を盛り上げた。我々は丁度還暦を迎え、明治生れとしては明治百年の大切な節目の年、日本百景の日本平から富士山や三保方面を眼下に眺めて、卒業四十周年を祝うことができた。当日は恩師金沢宏・石川正一両先生の御来臨をいただき、会員は三十一名出席した。

卒業五十年大会は昭和五十三年二月二十五日に三笑亭で開いた。四三会にとって七十七回の喜寿に当る目出度い大会であった。母校創立百周年記念大会に対する打合せのクラス会でもあった。

この年の十月七日、当時駿府城内にあった駿府会館で盛大に開催された創立百周年大会に出席し、静岡の中心街を全員で提灯行列で祝賀してから、三笑亭に集って記念大会の掉尾を飾って第七十八回の四三会を開催した。

破乱に明け暮れた昭和時代も終末を迎え、希望を持って平成を迎えた。

平成七年四月二十日に回を重ねて第九十七回の四三会を第百五十七回の三笑会（月例昼食会）を兼ねて開催した。静岡の四三会の本



後列右から堀田利郎、磯谷幸一郎、三宅静雄、近藤伊佐男、平山桂。  
前列右から河村亮、西沢純三、見原三郎、安池健次郎、高須彰。

部より会員三十八名に案内状を発送したので欠席された方々の状況もすべて知ることができた。御療養中の方も多く、また所用で欠席の方も数名あり、出席者は十名となっていました。

遠路関西から来臨の平山桂君の

音頭で乾杯して宴に入った。本部・関東・関西の級友の動静についての報告があり、特に関西支部から阪神大震災による被災状況が発表されたが、豊中市の平山桂宅、川西市の山本豊宅は被害は軽微とのことであった。宝塚市の塚

本猛次宅は被災されたが改修可能の由で安心した。

また、同窓会員の被害状況報告があった。地域別に被害はまちまちであったが会員家族は無事の由である。

本年に入り北海道、東北、関西、新潟と大地震が発生しているが、地震対策は真剣に考える必要がある。地震予知も日蝕・月蝕説等天体による影響から、巨大台風説、大陸プレート、太平洋プレート、フィリピンプレートの移動説など取り沙汰されているが、関東地方の直下型地震に対しては覚悟しているべきである。自然災害は恐るべき脅威である。

当日の話題も時節柄地震に始まり、多発している兇悪事件にまで及んだが、速やかに解決してほしいものである。

集中都市化による弊害や過疎化対策等も考えねばならない。環境破壊をなくし緑の豊かな平和日本に戻って、世界の手本になる国造りに為政者は努力してもらいたい。

級友の集いも米寿を迎える平成十年を目指して、丁度第百回目の四三会の会合を目出度く迎え、更に二十一世紀を目標に頑張ることを約して解散した。（西沢純三）

## 五 一 期

われわれ五一期生は一年に二回のクラス会を持つことになっており、静岡と東京で交互に開いている。平成六年の秋は十一月十八日に東京で開催した。会場は日本橋「いけ増」である。静岡から狩野君と牧野君が出席した。狩野君か

ら「静中五一会会員の懐かしの映画・想い出の映画」を国会図書館に寄贈したところ、お礼の手紙が来たとの報告があった。

出席会員からの近況報告では、大部分の会員が何らかの健康上の問題を抱えておりながら、上手に付き合っているようだ。飯田君は自分の体験から「病に負けないコ

ッは良い医者、良い

病院、それに運の強

いこと」との発言が

あり、それに対して

出席者の中には賛成

と異論があった。異

論者は医者も病院も

信用出来ないとい

う。色々の体験があ

るものだ。

田中君「人からお

元氣ですかと聞か

れ、お陰様で元氣で

す、息子も元氣です

と答えたら、その息

子さんは何処にいる

のですかと聞かれ、

返事に困った」とい

うユーモラスな話が

あった。

牧野君の長男が友

人と共同開発したと

いう新製品の「茶ブ

リン」(お茶を入れたプリンで、映画俳優のチャップリンに因んだ名前の商品)の現物を土産にと全員に配った。

当日の出席者は、蘆田正之、飯田鉄雄、大富部国男、狩野安彦、佐伯正剛、下山富太郎、高橋達郎、田中賢一、永井五一郎、難波悦郎、林盛次、原崎郁平、牧野三郎、宮野守信、森弘、合計十五名。

(森 弘)

## 五 六 期

平成六年の同期会は、十月三十一日(月)午後五時半から七時半まで、前年と同じKKRホテル東京で開かれた。

開会前に集ったのは、青木良文、石塚由雄、大野日佐太、奥野進、清水逸郎、杉原泰二、杉本正也、鈴木源一、高橋四郎、鶴岡英彦、戸田栄、萩原達雄、萩原仁、萩原文平、松田一郎の十五名で、それに静岡から山田勝也君が参加してくれた。会は幹事の鈴木源一君の司会で進められた。

初めに、同級生の計報についての報告があった。この夏の暑さはまことに酷しく、多くの級友を失った。六月には杉浦信夫君、八月には伊藤象一君と佐野豊彦君が亡くなられた。また静岡では、田形



八郎君、夏目信君、長谷川晃君が亡くなられ、少し前に工藤正信君が福島で亡くなっておられたことが知らされた。これら七名の方々とこれまでに亡くなられた級友のご冥福を祈って黙祷をささげた。

続いて、萩原達雄君の音頭で乾杯し、山田勝也君からは先日行なわれた静岡での同期会の報告などがあり、また、平成八年三月に迎える卒業後五十五年の節目の年、その記念の行事を合同で行ないたいとの提案があり了承された。

それから部屋中央に置かれた酒食を手にして思い思いに集まり懇談した。

会の中頃に、原田昇左右代議士が国会開催中で多忙を極めている中のわずかの時間を割いて駆けつけ、話の輪に加わって会を盛り上げてくれた。

話がはずむうちに二時間の予定はすぐに過ぎてしまい、最後に「岳南健児」を高らかに唱った。

これからの会の進め方についても話し合い、次の年の幹事は萩原達雄君と清水とで務めることになり、今回とはほぼ同じ頃、同じ場所に集まることを約して散会した。

(清水逸郎)

## 五七期

この一年ほどの、同期の集まりを中心に報告する。

昨年は、例年通り、三回の会合を開いた。二月七日、八月四日、十一月七日である。特に八月には

静岡の本部から、秋山優、青木、川辺、河村の四君が、あの暑さのなか、日帰りでかけつけてくれた。静岡の消息も聞かせてもらい改めて旧友相集う有難さを身にしみて感じた。会合の場所は、JR有楽町駅前の「響」という会員制のバーである。月見里、岩井両君がメンバーになっている縁による。集まる人数は、二月が十五人、八月が静岡の四人も含め十四人、十一月が十一人であった。

本年の第一回は二月七日であった。昭和五十八年二月に、岳南会懇談会としてスタートしてから十三年目、数えて三十七回である。十一人が集合した。今後の予定は八月七日(月)、十一月七日(火)である。

■計報 北村正君が亡くなった。三月五日午後二時であった。三月一日、有志という名でお見舞の花を贈ったが、空しかった。ガンであった。同君は、旧制静岡高理科三組、東京大学医学部を卒業、医学

博士、明々堂眼科医院院長であった。いかにも大人然とした風格のある人を失ったことは惜しい。ただ冥福を祈るのみである。

(影島利邦)

## 六〇期

卒業50周年同期会

新緑薫る四月二十二日、同期会が清水駅前の「マリベール清水」で催された。当会場は旧名平安閣、この日も何組かの結婚式があり大変めでたい雰囲気溢れていた。清水の幹事一同の骨折りと心尽しで、最初から盛り上った同期会となったが、今年は終戦五十年、特に終戦の年果立った我々は卒業五十周年の節目を迎えたことでもあり、一層意義ある会合となった。

生憎小雨模様となったが五十五名が参加、うち関東地区からは井田、上杉、小林、沢田、鈴木(光)、萩原、原田、山本(雅)の八名が参加した。会場には静中応援歌のメロディーが流されており、途端に中学時代に戻った気分になったのは小生ばかりではないと思う。

幹事長役の鈴木亀雄君の挨拶と司会により五時半開会。冒頭、この一年間に他界された塩坂武彦、岡村成典、中山正美の三君をはじめ



め物故者のご冥福を祈り黙祷を捧げた。

才茂菅英代表幹事から再会の喜び、これからの健康保持への努力と同期会の隆盛を呼びかける力強い挨拶があり、引き続き東京在住ではあるが、清水出身の山本雅之助君の乾盃の音頭で、宴会のスタートがきられた。

再び応援歌のメロディーの中、旧交をなつかしむとともに再会を喜び合う声も高まり、なごやかな時間が続いた。しかし体調の具合で出席できない人の話となると、ひと事ならず身につまされるものである。

料理はさすが地元清水ならではの新鮮な海の幸がいっぱい、特に生白子とか桜蝦は、郷里を離れて住む我々には旬の味として一層食欲をそそるものであった。

宴会が進む中、由比町の手島英真君からの話があった。推されて町の教育長に就任、過疎化傾向の町起こしに一役をと、町立の東海道広重美術館を作り館長を兼務しているとのこと、パンフレットを配布しPRを兼ねた熱心な応援依頼があった。

引続いて、秋田新隆君から以前からサイパンの慰霊活動に精進し、平成二年建立に漕ぎつけたサ

イパンの南溟堂(匡際礼拝堂)の会長に推され、現地法人組織化への努力が続けられているとの報告がなされた。社会のために活躍されている同期生も多く、力強いものを感じさせられた。

アルコールもまわる程に席を離れ、それぞれメンバーを変えての懇親の輪があちこちにでき、場内の熱気も納まりを知らぬ中、杉本武君が壇上に上り、往年の猛者連を指名して即席の応援歌リーダーを編成、応援歌第一から第三まで全員起立して斉唱した。なつかしい天覧記念対静商戦に想いをはせ時のたつのも忘れ、実に楽しい一時であった。名残りつきぬ想いのまゝ、恒例の校歌斉唱となり、四番までの完唱と、一本締めで閉会した。

散会に当り、突然、西の汽車通の面々が壇上に駆け上り、来年の開催地を焼津に強くアピールする一幕もあった。来年の再会を楽しみに会場を後にした。

(井田 淳)

## 六二・六三期

### 東京で開催

関東地区を中心とした同期会が、平成七年一月三十日に開催された。

今回は日産火災社長の同期生川手生已也君の肝入りで、同社のVIP用施設である東京芝の春光会館が会場である。

当日は関東地区は勿論、静岡からも昨年七月一日に開催して間も

ないにも拘らず多数参加して賑やかなクラス会となった。

受付嬢などすみずみまで行き届いたサービスのなかを次々と到着する友と「やあやあ」と久調を叙し、やがて会場に移って大塩君の

司会で開会。

木下、井手、寺尾の関東地区三幹事と静岡を代表して平尾君の挨拶に続き三枝君の発声で乾杯。亡くなった朋友や、一月十七日の阪神大震災の物故者に思いを馳せて拍手は自粛、早速懇談に入る。

会場提供者の川手君に続いて久しぶりに参加した香川、小宮、福岡の三君のスピーチを聞きながら歓談また歓談、途中全員の記念撮影をした。これは三枝弘之君(PFU社長)のご配慮で同社から写真堪能な社員が応援にかけつけてくれた。他に帰りのタクシーの手配までして頂いて恐縮する。

尽きることはないが大沢君のリードで応援歌と校歌を歌い、香川君の一ばつめめでひとまず中締めとなる。

そのまゝ同じ会館の別室に移動して水割り飲みながらの二次会。「これからはいつも最後だと思っ、オール出席だノ」などと語り合い、次は来年静岡で会おうと名残りを惜しみつつ散会となった。

(伊東 守)

出席者・阿部慶三、荒浪直彦、家本豊、猪狩俊彦、井出義光、伊東守、岩倉達也、海野昭平、大沢三朗、大塩幸男、大庭陽三、香川一郎、川手生已也、木下景一、小宮



鳥夫、三枝弘之、塩沢敬、柴田克朗、柴田有年、清水昭平、清水康夫、清水裕二、鈴木市三、鈴木玲之、田喜光、田代一雄、寺尾寿夫、平尾謙司、福岡純一郎、松井敏、望月雄介、八木豊、山根雅巳。  
以上三十二名

### 六四期

平成七年四月十九日、第二十六回六四期ゴルフ大会を、オウムで有名になった富士宮市、小田急西富士ゴルフ倶楽部にて開催した。

参加者は過去最大の二十名となり、天も感動したのか、東京を出る時は小雨だったが、九時三十分のスタート時には止んで昼頃には薄日がさし、午後のハーフは晴天になって気温も上昇し若葉が萌え始めた春の一日を皆楽しく過ごすことが出来た。「晴れてよし曇りてもよし富士の山、元の姿は変わらざりけり」と山岡鉄舟先生が詠んだが、二時頃には白雪に光り輝く頂上を、我々に見せてくれた。

東京や千葉、神奈川より見る富士とは別段で、いつ見ても素晴らしく、見飽きない。

三位になった稲森照男君の言葉ではないが、健康でスタートホールのティグラウンドに上がれる喜びを満喫した。



優勝は中学卒業以来実に四十七年目に参加した川口実(旧姓村松)君、出来るだけ長生きして今後皆とプレーしたいと挨拶した。二位は神谷武男君、昨年春十有年余に

婚記念日という意義のある日で、二重に嬉しいと言葉をつまらせて話した。

今回特別参加の68期の荒谷じつ子女士は並み居る先輩を押しのけ見事五位に入賞。同じ組の村上喜代二君が始めてのブービー、奥さんが喜んでくれる賞品(洗剤一年分)を手にした上、本日は自分なりの良いショットも出て満足とのこと。約八年ぶりに出席の河村勉君、健康保持のため週一回ゴルフをしているが、今日は素適な賞品(双眼鏡)をもらい喜ぶ。また、

初参加の渡辺進次君はゴルフショップを経営している。その他、参加者は、永田進一君、石原良昭君、山本和彦君、佐野旭君、漆畑茂君、漆畑輝夫君、伊藤剛君、風間政彦君、渡辺素夫君、大石次男先輩、岩本吉雄世話人と野沢。

(野澤正憲)

### その後の同窓会活動

(平成6年12月〜7年5月)

#### ◆幹事会

平成6年12月19日(月)

18時30分

新日本証券食堂

出席者：30名

・会報38号の発送依頼

・打合わせほか

#### ◆役員会

平成7年1月23日(月)

新日本証券クラブにて大石会長

はじめ五副会長意見交換。

#### ◆役員会

3月10日(金)

新日本証券食堂  
出席者：10名

・役員の役割分担など

#### ◆運営打合わせ会議

5月6日(土)

奥沢副会長はじめ四名

#### ◆役員会

5月10日(水)

新日本証券食堂

出席者：13名

・平成6年度活動のまとめ

・総会の準備ほか

#### ◆役員会

5月23日(火)

新日本証券食堂

出席者：9名

・総会準備 ・打合わせ他など

# 回想・随感・近況など

## 静岡の万葉を歩く

(その十)

51期 原崎 郁平

同期の学友というのはいり難いものです。富士市在住の山仲元司さんが私の勝手な願いを聞いて、多忙の中を案内してくださった。富士市には万葉歌碑が4つあり、探しながら歩くと二日や三日はかかるのに地理に詳しい友のお蔭で車で半日程度で探訪出来た。

富士市伝法の広見公園内の西方に二体の人型の歌碑が建っている。

天の原 富士の柴山 木の暗の  
時移りなば 逢はずかもあらむ

(巻一四―三三五)

大意は「今日の夕方の約束の時間が過ぎたら二度と逢うことが出来ないだろうなあ」天の原は富士にかかる枕詞、柴山とは富士山麓の柴の生えた森林地帯を言っているが、ここまでは序の部。「木の暗の」は木陰の暗がりのことで「この暮れ」とかけ言葉になっている。歌碑の形は写真にあるように人の形をして二体が寄り添うように立

っている。歌碑の右側に「東歌」と題する説明文がある。

「万葉集巻十四には若い男女の恋や日常生活を素材に、東歌とよばれる興趣に富んだ東国庶民の歌が

数多くおさめられています。いずれも発想や表現は素朴で、土の臭いを感じさせる生気にあふれた歌です。

この歌は富士の麓の柴山の暗くおい茂った木陰で、約束の時間が過ぎてしまったら二人は逢うことができなくなってしまうかもしれないと、不安な気持ちで山路をい

そぐ男の感情を詠いあげた恋の歌です。昭和63年3月 富士市教育委員会

歌碑の西方の少し離れたところに、船に三人が乗った像が立っている。説明によると「友好の像ブチャーチン提督と日本の漁夫」とある。一八五五年一月、ブチャーチン提督の率いるロシア軍艦ディアナ号が駿河湾で難破した時、地元

の漁民が乗員を助けた記念の像である。

## 「英語俳句」雑感

51期 佐伯 正剛

最近「英語俳句」という短詩が米國を初め欧州で普及しています。紙面の都合で日本人及び外国人による三圖書からの前記短詩を我が

國の伝統俳句と比較してみます。  
(一)季語と定型  
米國俳句協会前会長佐藤絃彰編著「英語俳句」によれば白句を除き他者の約九〇句のうち、五七五の韻律と季節に関する語句を持つ句は僅かに五句です。欧米共広大な地区の為季節感が少く、それ程季語には関心がないと言っています。

語数及び行数については実に幅広く、句全体が一行のもの二〇句で、二、四、五行のもの六句、あ

とはすべて三行句です。ここでは五七五の韻律を持つものと特に語数の少ないものを例示します。

(ア)五七五の韻律を持つもの、

「The hunter returns —  
in his gamebag he carries  
The moon and the stars.

(by: Robert Mainone)

銀罎り——  
獲物袋の

月と星 (編集者訳)

この場合の「月」は季語とは言えないようです。(筆者私見)

(イ)極端に語数の少ないもの、

「Snow: 雪  
all's 全」

新し(訳者同前)  
(by: Raymond Roseliep)

(二)語句と意味

「海を越えた俳句」佐藤和夫著から一部引用します。同氏は「特に短かい俳句には季語があり、切れ字があり、独特のテニヲハがある。これらは翻訳できないものである。また寺田寅彦氏の「俳諧の本質的概論」からの引用では「翻訳と比べてみることにによって始めて俳句というものの本質がわかるような気がする。(中略)外から見た研究も必要である。」更に後出のR・H・ブライス氏の「ハイク」からの引用として「俳句はわ

れわれがいつも知っているのを知っているとは知らなかったことを知らせてくれる。」とも言っています。日本語の特色として名詞は単独では単複数の区別がありません。前記著者は「小泉八雲（外国人）が訳した芭蕉の「古池」の句について『芭蕉の原句は（中略）英語であらわすのは不可能でないにしても、むずかしい。』とことわって訳している。」（後略）とあります。

「古池—蛙が何匹も飛び込む—水の音」

Old pond—frogs jumping in—  
sound of water」

（韻律数二・四・四—筆者）

「八雲は俳人水落露石が池に蛙を沢山飼っていたことを述べているからそれを念頭において複数にしたのかも知れない。」

この句を漢訳したものが中国の人民日報に紹介されています。

「この漢訳を日本語に訳せば、

（以下振仮名筆者）

静寂たる古池塘

蛙跳んで碧水に軽波漾う

乍ち幽韻の響くを聞く」

「この訳は中国語の十七音節から出来ており、しかも塘、漾、響が韻を踏んでいる。」（後略）

なお手許の新修平仄字典、林古

溪著によれば右三字は総て韻が異なるようです。

（三）外国人著書「ハイク」から前出のブライス氏の著書「ハイク」四巻は有名です。同氏は英語俳句だけでなく禅を含み汎く和漢の図書に通じています。芭蕉の「古池」については、

（韻律数）  
「The old pond :  
A frog jumps in, — (四)  
The sound of the water.」(五)

また「枯枝の鳥」については、  
（韻律数）  
「On a withered branch, (四)  
A crow is perched, (四)  
In the autumn evening.」(六)

この句の中七は「鳥の止りけり」で九字の字余りですが訳文では韻律数は最も少なくなっています。なお英訳では受身となっていますが進行形が現在完了形の方がよいと思います（鳥が複数の訳者も多い）。

以上は三つの図書からの極めて僅かの引用ですが、結果としては俳句は字数が少い上に季語を持ち含蓄の多い言葉遣いの為にその翻訳は極めて困難と考えます。従って韻も踏まない、又韻律数が五七五より少い短詩は「英語俳句」から程遠いものと言えましょう。

（注、引用部分は原文通りとし総て「」で括りました。その他の文責は筆者にあります。）

## 平成の大東亜共栄圏

（その二）

60期 黒田武之助

前回（第38号）では、マレーシア、タイ国の駐在時代の体験と静中時代のニュース映画などとの思い出をからませてみました。今回は、フィリピンに飛んで見よう。

一九八八年九月、ODA（政府開発援助）プロジェクトで成田からマニラへ飛んだ。約四時間でマニラ湾に近づく。タイ国のバンコクより約二時間分距離が近い。

昭和十六年十二月、日本軍はルソン島北西部のリンガエン湾に上陸している。当時フィリピンは米国の植民地で、マッカーサー將軍の米軍が駐留していた。激戦地として有名なコレヒドール島もマニラ湾北部に位置している。

フィリピン政府の人達の出迎えを受けて、マンダリンオリエンタルホテルに着く。このときのプロジェクトは、工業標準化振興調査で工業規格を作成していくための基礎調査であった。私が担当した分野は、食品加工と電気・エレクトロニクス製品で、すでにフィリ

ピンに生産拠点をもっていた松下電器、ユニデン、日本電気等の日系企業とモトローラなどの米国系の通信機器メーカーの生産実態を調査した。食品加工では主としてフィリピン地場資本の工場を見て廻った。マニラ近郊の調査に次いで、ミンダナオ島のカガヤンデオロとダバオへ飛ぶ。

カガヤンデオロ市では、当地の商工会議所の会頭以下約20名のメンバー会社の幹部との地場産業振興のための意見交換を行なった。このカガヤンデオロの飛行場は太平洋戦争中マッカーサー將軍がオーストラリアへ撤退したときに飛立った地と伝えられている。

ダバオ市では、市長の歓迎会の席上、「海ゆかば」を聞いて驚いたことがあった。

翌年の一九八九年は、フィリピン貿易工業省輸出加工区庁のプロジェクトで、工業団地の開発促進を目的としたものであった。

フィリピン政府が開発した四ヶ所の輸出加工区に外国企業を誘致して、外貨を得ようとするもので、すでに米国や日本の大手企業も生産拠点を持っているところもある。先ずマニラから近いルソン島北部に位置するバギオ市、こゝは日本軍も米軍も上陸地点に選ん

だリンガエンに近いところである。この工業団地には、米国のテキサスインスツルメンツ（TI）社の半導体の工場がある。

次いでマニラ市郊外にあるカビテ輸出加工区。こゝは日系企業が中心でクラリオンなどのAV製品の工場と台湾の中小企業、そしてフィリピン資本のアパレル縫製工場等がある。

マニラ湾の北部に位置するバターン半島にあるバターン輸出加工区。この地域は、マルコス大統領当時開発された工業団地であるが、労働運動が激化して米国籍企業など次々と撤退したところである。最近ではマニラ港からフェリー客船が就航し注目されている。太平洋戦争当初、バターン死の行進など私どもには良い印象はないが、一日かけて見て廻った。

マニラから南へ約五〇〇キロメートルのセブ島に隣接するマクタンのセブ空港は、日本からの直行便があり、マリニリゾートとして人気がある。この工業団地には、米国籍の時計工場（タイムックス社）、ナショナルセミコンダクタ

ー社の半導体工場や日系企業も生産拠点を設置している。

この調査が終了する10日くらい

前にマニラ市中心街マカティ地区を中心としてクーデターが発生した。私も調査団が宿泊していた日航マニラガーデンホテルに約7日間、銃撃戦の中に閉じ込められた。一九八九年十二月のことである。今回は、このときのお話をしよう。

## ダイビング(2)

61期 鈴木 孝

ザー、ザー、ザー、エメラルド色の海面に一条の白線を描きながら、ダイビング・ボートは港へと帰路を急ぐ。十月ともなれば、さすがにあのガラガラと突き刺すような南海の陽光にも、ほのかな優しさが加わり、潜水で冷え疲れた体を、やんわりと暖め勞つてくれる。

俺の横には、かなえ・順子・美佐、文句なく美人の部類に属する三人の女達が、二十三歳のはちぎれんばかりの肢体を、カラフルな水着に包み、体一杯に暖かい日射しを受け止めようとウェット・スーツを脱ぎすて大の字に横たえている。かなえはJALのステュワーデス、順子は或る商社のOL、美佐は伊豆の旅館の娘、三人は大学時代からの遊び仲間だった。

彼女達、俺が眠ったふりをした

がら薄目をあけて、その成長しきった肢体を覗きしているのを知ってか知らずか——。漆黒の髪は潮風に吹かれ、真白な甲板の上で踊っている。未ださめやらぬ小麦色の肌は、極端に布地を節約した、今様の水着に包まれてはいるが、その水着がかえって女達の色気を増幅し、男の官能を描きだす。もり上ったのは切ればかりの胸から腹にかけて流れる、凸と凹のバランスのとれた曲線。グツとくびれたたおやかなウエストから、急にふくらむ腰にかけての女性特有の自己主張。ボートの震動に従って未だ乾き切らぬ水滴が、滑らかな肌の上で踊っている。しかし「正常な男性」の視線は、もう少し下、そう、近年とみに長くなった、その脚の付け根の方に、どうしても向かわざるを得ない。ハイレグの裾は、脚をより長く見せる為にかますます深く切れ込み、一見危なげに見えはするが、伸縮性の強い水着の縁が、柔らかな下腹部にしっかりと食込み、「ここから先は駄目よ」とばかり、しっかりとガードしている。少々毛深い順子のそのあたりは、はみ出たヘアを処理したのであるうか、青白い刺り跡が目には痛い。

慣れというのは恐ろしいもの

だ。彼女達も始めから、今のよう大胆なポーズを取っていたわけではない。そろそろ老人の部類に足を踏み入れたとはいえ、まだまだ男性そのものからは抜けきっていない俺の目を敏感に感じてか、何時も大判のビーチ・タオルを体に捲きつけ気遣っていた。しかるにスクーリングの六日間は見事にその壁をとり除いてしまった。男女共学の中で育った彼女達の慣れの速さは、むくつっき野郎仲間だけて育った我々年代の、遅々として進まぬ男女の同化作用の遅さをせせら笑っているようだ。

種を明かすと、実は俺達四人、ダイビング・スクールの同期生、今日で最後の潜水実習を終え、今、港への帰り路なのである。

(以前本紙36号にダイビングの事「老ダイバーの呟き」を書いた。

その後数人の方達から「十余年前どういうキッカケで始めたのか?」との質問を受け、今回はそのキッカケを書くつもりが少し前置きが長くなり過ぎたようだ。お待遠、そろそろ本論に入る。)

あれはまだ、ほんの半月程前の出来事でしかない。二次会に誘はれ、五丁目の「マーム」というクラブの扉を押した時には、もうか

なり出来上っていた。

銀座ともなれば殆どのママさん、ゴルフ位はやる。しかしダイビングを趣味にしているママは、まだまだ少ないのではなからうか。「マーム」のママは、そんな数少ない中の一人である。当然の事ながら、お客さんにもダイバーが多く、年に二回は店を閉めホステスも連れて、クラブ主催のダイビング・ツアーまで開催されている。

当夜丁度我々の隣の席にいたのが日本でのダイビングの草分け的存在で、ダイビング関係の本も何冊か書いている小出康太郎氏だった(彼は現在インドネシア・バリ島でダイビング・ショップを経営している)。生家が神戸須磨海岸のすぐ近く、夏ともなれば赤穂のま

ま家を飛び出し、朝から晩まで海に親しんでいた俺にとって、彼の話は面白くてたまらなかった。その夜は久しぶりに飲み過ぎ、贈呈された彼の著書を片手に、家に辿り着いたのは一時か二時か、定かには憶えていない。

「鈴木さん、予約がとれました。」それから四、五日たった頃「マーム」から電話がかかってきた。何の事だか、俺にはさっぱりわからない。

「何の予約?」

「ダイビングスクールです。」

「ダイビング・スクール?」

「先日頼まれたダイビング・スクールよ、小出さんが早速手配してくれました。明後日の十時のJALで那覇に飛んで下さい。ジョイ・ジョイのインストラクターが、空港に迎えに出ています。」

「……………」

俺は暫らく声も出なかった。朦朧とした頭に、やっと数日前の「マーム」でのやりとりが浮かんできた。そうか、そうだったのか。俺は酒の勢いも手伝って、「よし、俺もやるぞ!」と啖呵をきった事をすっかり忘れていた。とは言え、この段になって「酔ったあまりの失言」と断わったんでは男が

廃る。どうなる事かわからぬが、後は野となれ山となれ。俺が総ての予定をキャンセルして、指定された飛行機に飛び乗ったのは六日前の事だった。

\* \* \*

ザー、ザー、ザー、エメラルド色の海面に一条の白線を描きながら、ダイビング・ボートは港へと帰路を急ぐ。船尾から伸びる白い線はだんだんと薄れ、青い海の方へ消えて行く。それは丁度、現在という時間が刻々と移り、過去という忘却の海に沈んで行くのに

似ている。少年の頃夢見た「人生」というとてつもない長さが、今振り返ってみると何と短かく感ずることか、いや記憶に残り得ない程つまらぬ事の連続だったのかも知れぬ。そんな中、十年前のこんな他愛のない事が奇妙に頭に残って離れないのは何故だろうか？

## 青年海外協力隊の

一員として

100期 船橋 智

私は今年六月より二年間、政府開発援助を実施する国際協力事業団が行う事業である青年海外協力隊の活動に参加、アフリカ最西端の国セネガルにおいて協力活動を行います。

私の活動は、保健衛生・医療の分野で、首都ダカールより六〇〇キロ東南東タンバクンダ州のグデイリーという村の医療センターを拠点に、看護婦、助産婦、臨床検査技師、保健婦らの隊員と共に、セネガル人スタッフと共同で地域（岩手県の約半分、人口約一八、〇〇〇人）のヘルスケア全般の向上のための協力活動を行います。チーム派遣のプロジェクトで、私はそのコーディネーターとなります。

プロジェクトは担当地域にお

る巡回ワクチン接種活動、医療設備の整備・改修、衛生教育、栄養指導などを行います。任地における住民の平均寿命、乳児死亡率、識字率、医師の数の指標を日本と比較してみても、他の途上国同様に見ても水準にはなく、我が国の常識からみると医療システムは事実上機能していない状態です。

今日、例えば「持続可能な開発」という概念が大きく浮上していることに表れているように、「開発」は、途上国が内的に抱える問題ではなく、環境問題、人口問題と直結する課題として捉えられていると思われまふ。加えて東西冷戦の終結と共に「南北問題」という認識も後退しつつあります。もはや大戦後独立した途上国の今後の行方は直接私達および私達の子孫に関わる問題で、他人事ではないという歴史的段階に入っています。ですから、任地においては現地のセネガル人達の同胞（！）として共通の目標に向けて自分にできる精一杯のことをしようと思ひます。

さて、任国では公用語がフランス語であるため、現在フランスのヴィシーにおいて六週間の語学訓練の最中です。これに先立ち、三

## 浦田周社兄 (74期)

### 銀座・松坂屋で木版画展を開催



左から中村敦子さん、浦田兄、渡辺伊保子さん、角谷治子さん。

「しゅうしゃ、しゅうしゃ」と静高時代から呼んでいた同期生の浦田周社（うらたかねたか）兄が平成7年4月12日～18日の間、東京銀座・松坂屋で「日本のこころ・ふるさとの四季、六世版隈・浦田周社木版画展」を開催した。

銀座での個展は今回が三回目であり、オープニング・セレモニーが初日の夕方、盛大に催された。周社兄の挨拶が始まり、61期の藪崎昭画伯、興津出身の講談師・宝井馬琴師匠等が、浦田画伯の人となり、仕事ぶり等を披露した後、税理士・松下晴一同期生の乾杯の音頭で祝宴に入った。

周社兄は静岡の浮世絵木版処「版隈」の六代目、すべてを自ずから制作する創作木版画家である。『版隈』さんは、駿府のはんくまさん、と代々東西の絵師や彫師達から親しまれ、江戸においては、浮世絵の全盛期、「集古十種」の摺師として携わっていたという。

本展での圧巻は何といっても、

日展入選作「初夜上堂」のすばらしい画面であらう。これは、これまで描いてきた「達陀松明」「一番簞松明」（いずれも日展入選）等、東大寺二月堂の千載の伝燈、御水取りの荘厳さを表現したシリーズの一環である。

他に、駿河路の風物や、古都奈良、麗峰富士等数々の作品が見られたが、特に駿府公園やお堀端、その石垣等一連の駿府城址の面影は、我が青春を蘇がえらせてくれる。彼の作品全てに共通する特徴は、見る人をその場に連れて行きその場にいるような気になてくれることである。

周社兄は野球が好きで、時々仕事の手を休め、静岡の野球の練習を見に行くという。今、プロ野球では静岡卒の赤堀（バッファローズ）、山崎（タイガース）、望月（カープ）兄らが活躍している。今後、岳南健児の活躍とともに、人間の描写にも仕事の領域を広げてもらえればと思う。我々国民にやすらぎを与え、心にゆとりと豊かさをもたらす文化の火を灯し、歴史に残るような作品を描いてくれることを願ってやまない。

「フレイ・フレイ、しゅうしゃ、フレイ・フレイ、しゅうしゃ」

日ほど国際協力事業団による研修があり、この機会に少しパリを見て廻ることができました。およそ七年ぶりでしたが、改めてフランス人が人生を豊かに楽しむということに情念のようなエネルギーを注いでいることを感じることができました。私がひとつ印象深かったのは、サンジェルマン・デ・プレ教会の聖堂において、パッハのヨハネ受難曲の演奏会を聴けたことです。パリには大きな教会がいくつもありますが、それらの聖堂においておそらく市民グループによる楽団、合唱団による演奏会が日常頻繁に行われています。チケットは約二・三〇〇〇円。フォレーのレクイエム、パッハのマトイ受難曲、モーツァルトのレクイエムといった名曲・大曲を荘厳な雰囲気の中で楽しむことができます。おそらく、フランスにカトリック信仰が強く根ざしていることの表れですが、日常的に極めて高い文化的水準で歴史が連続していることのすごさがここにはあります。

す。

日本においても同様で、私たちはこれから一層建築・造園・食・音楽・絵画といった日本独自の文化の遺産を日常的な領域で再確認していくように思います。

私は間もなく日本人には殆んど馴染みのない場所へ赴任します

が、セネガルは特に音楽が発達しており、彼らの卓越したリズム感覚は全く他の追従を許さぬものがあります。セネガルは一九六〇年の独立ですから、まだ半世紀にも満たない国です。文化においては民族等の集団の独自性が国の独自性へと昇華していく過程にあるのではないかと考えています。これは国家として自立しテイクオフする重要なインパクトとなるはずで

す。乱文となりました。活動を終わりましたらまたご報告申し上げますと存じております。

《連絡先》 A/S JICA SENEGAL

OFFICE B.P.3323

DAKAR, SENEGAL

●若い同窓会々員の活躍は嬉しいがぎりです。船橋君が元氣よく協力活動が続けることを祈らずにはおられません。そして、セネガルから中間報告の寄稿を待ちたいと思います。

(編集子)



## Ⅱ 各期幹事一覧 Ⅱ

幹事が変更の場合は事務局までお知らせください。特に幹事未定の期(83・88・91・98・99・101)は至急選出してご連絡を!

- |                           |           |                              |                          |                |                |                |           |                 |                          |           |           |                |                |                |                |                 |           |                          |           |                |           |                |           |                |           |           |           |                      |                      |                      |                      |                       |                       |                       |
|---------------------------|-----------|------------------------------|--------------------------|----------------|----------------|----------------|-----------|-----------------|--------------------------|-----------|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|-----------|--------------------------|-----------|----------------|-----------|----------------|-----------|----------------|-----------|-----------|-----------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 68...高橋俊見・荒谷じつ子・大川庄治・雨宮明生 | 69...小林泰三 | 70...味岡 宏・川端正良・関折男・中馬敏雄・宮本達治 | 71...児玉文男・後藤弘枝・海野幸雄・篠原 直 | 72...桜井亮介・深田 均 | 73...杉山 光・中西英一 | 74...佐藤鐘司・藤原経史 | 75...後藤正義 | 76...酒井孝太郎・鈴木 浩 | 77...加藤重信・野方重人・三浦位通・清水雅尚 | 78...鈴木藤男 | 79...上田尚亮 | 80...野崎幸彦・諸星勝保 | 81...鈴木素明・萩原英昭 | 82...杉本三郎・堀内淳司 | 83...柳原明生・田辺 哲 | 84...池田幸司・増井喜一郎 | 85...成岡和美 | 86...橋村芳一・平岩正史・蘆科名雄・沢井良輔 | 87...鳥巢 修 | 88...荒井千明・小林一郎 | 89...清水 篤 | 90...岡村幸彦・望月 朗 | 91...松野敦子 | 92...奥田規之・細沢 優 | 93...藤森 尚 | 94...田代卓靖 | 95...新村昌弘 | 96...朝比奈正三・梶原由三・成岡英彦 | 97...朝比奈正三・梶原由三・成岡英彦 | 98...朝比奈正三・梶原由三・成岡英彦 | 99...朝比奈正三・梶原由三・成岡英彦 | 100...朝比奈正三・梶原由三・成岡英彦 | 101...朝比奈正三・梶原由三・成岡英彦 | 102...朝比奈正三・梶原由三・成岡英彦 |
|---------------------------|-----------|------------------------------|--------------------------|----------------|----------------|----------------|-----------|-----------------|--------------------------|-----------|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|-----------|--------------------------|-----------|----------------|-----------|----------------|-----------|----------------|-----------|-----------|-----------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|

## 事務局よりのお願

- ①振込用紙は会報発行のたびに、会費の納入済・未納にかかわらず銘々に同封しておりますのでご諒承願います。なお、用紙の裏面に必ず期名を記入して下さい。
- ②住所変更及び勤務先部署等の変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。
- ③会報及び名簿に新たに広告掲載を希望する方は事務局にお知らせ下さい。

◎各期の幹事は、ぜひ幹事会へ出席してください。もし欠席の場合は代理の方に依頼をお願いいたします。

◎幹事が未定・不明の期では至急幹事を選出して、事務局まで連絡してください。

〒153 目黒区上目黒2-18-13 山中ビル タカラ歯科医院内 静中・静高関東同窓会

蘆科名雄(87期)

(電) 〇三三七九二三五八〇

電話は午後〇時〜午後六時にお願いします。

FAX 〇三三七九二七八二八

## 「こえ」

この欄は「もう一つの総会」です。  
気軽に筆を執り、送ってください。

42 中嶋 敏  
会費を送るときに思う。「また一年たったかなあ」と。一年の重みを感じる昨今です。

52 小川善次郎  
「七十五歳の修学旅行」の記事を読んで感動いたしました。幹事の川島喜八郎氏の企画によって、本

田技研鈴鹿製作所、F1サーキット、ミキモト真珠を見学された様子が、広川聡の活写によって報告されており、御一緒にしたような臨場感を味わい、励まされた気持ちです。

53 桜井 昌也  
昨年六月より、小生の席のある事業部オフィスが左記に移りました。

〒160新宿区西新宿三―七―一  
新宿パークタワービル二〇F  
電五三三三―三八九〇  
FAX五三三三―三八九四

53 小野 一夫  
毎日ブラブラと元気に暮しております。

53 木宮 高彦  
長生きの秘訣の一つに「義理を欠け」というのがありますが、す

60 君島 康弘  
引き出しの奥から竹刀の鐔が出てきた。シヅ中、一ノ一、キミシマと刻銘がある。今から五十五年も前のものである。どうしてこれが今まで私の身辺にあったのか不思議である。水分が抜けてかたくなり少しちびんでそり返った鐔は今の竹刀にも使えるものか？

60 斉木 学  
昨年六月末より相談役になりました。工場や系列会社の応援をしながら生活しています。同窓会にも出られるようになりました。今後ともよろしく。

61 小久江浅二  
内科の医者として、毎日多勢の患者さんと接して、少々疲れ気味です。お年寄りの訴えがよく判る年寄りになってきました。少しでも社会の役に立てばと、もう少しがんばります。

61 浜田 茂明  
平成六年三月末をもって長寿園園長の職を退きました。

66 関本 和男  
平成六年六月六十三歳をもって役を終り漸く一息、暫くは顧問で少々拘束されるものの欠席がもの同窓会にも出られるようになります。

静岡で生れたのが昭和六年、二

十二年を静岡で、四十一年を東京で、戦中戦後の混乱期を含め必死に生きてきて、漸くの第二の人生発足です。

66 深沢 正  
健康に益々留意している今日此の頃です。皆様の益々の繁栄を祈っています。

67 矢部 隆  
半年、海外に出て技術指導をする仕事をしていきますので、東京での会合にも思うように出席できない状況です。お蔭で元気にやっております。

71 富野 寿  
同窓会本部の方にお願ひしていることですが、自動引落しにして頂ければ手間も省け会費も多く集まると思います。本部と一括して行えば（勿論本人の自由意志）何とか人数も銀行の受け入れられるものになる気はしますが、いかがでしょうか？

71 佐藤 利治  
事務所の住所がわかりました。横浜市青葉区藤ヶ丘二―一九―一2A

71 林 洋右  
電 九七二―八一〇  
欠席続きで御無沙汰ばかり。これも元気の所為で、週末は「スタート、ゴール」と現役スタッフの

一人として中央競馬の実況アナウンスを担当しています。ようやく生きの良い若手が出て来て、更に競り合っています。「もう」より「まだ」で、もう少しです。

72 田中 敬二  
勤務先（三井銀行退職）  
東芝総合ファイナンス（株）  
電（03）3342―1371

役職 取締役社長  
現在バンコクに常駐。  
73 青木俊一郎  
三菱石油株式会社  
国際販売アジア地域担当 理事

73 西本 昇平  
平成六年三月に、三十年間勤めた自動車業界から広告業界へと転身し、過去の肩書とこだわりをサリと捨てて新しい行動様式に新鮮な気分で見学している。一方職業や生活の実利とは全く無縁なテーマで通信教育を受講しはじめて、学生気分も味わっている。

74 木村 敦  
本田技研に勤めて三十三年。今は本田宗一郎（故人）の設立した財団法人の運営に携わっています。七十四期生の関東地区の有志で、二―三年前隅田川に舟を浮かべて一晩、皆で愉快に談笑しました。大官市在住。妻と息子と三人家族です。

## 平成六年度会費拠出者

(順不同・敬称略)

平成6年11月1日～7年3月31日

- 42 岩波信平(6)、井出多米夫、中嶋敏、吉田幸一
- 43 三宅静雄
- 45 速水基夫、伊藤敬三
- 46 篠原清、河村喜久雄、西静男
- 49 嶋三四郎、直原敏衛、加藤馨
- 50 篠原泰
- 51 梅村魁、江川友治、住太郎
- 52 寺尾利男、永井五一郎(3)
- 53 小川善次郎、苦米地一様、曾根信一、川島喜八郎(3)、佐藤昌武
- 54 徳永悠久、宗像醇、桜井昌也
- 55 志田寿一、小野一夫、鈴木弘雄、木宮高彦(3)、望月昂八木銑次郎(4)、高井昂、大畑忠夫(4)、佐野賢郎、山田幸作、山口道也、磯野修、柴崎芳三、大藤直久、鈴木猛
- 56 宗四朗、山下武男、野中篤、峰田勝
- 57 松田光彦、青木良文、高橋四郎(4)、原田昇左右
- 58 島居義彦、大島隆夫、酒井博天野喜久雄、岡田久男、菅稔福住俊郎
- 59 原木睦雄、須山静夫、望月恵一、伏見祐一
- 60 尾崎龍男、野沢栄司、笠岡達男、逸見昭三、河合睦郎、君島康弘、齊木学、満間猛、上杉重吉、山本善通、鈴木正巳
- 61 井田淳、萩原莊太郎、堤崇宇都宮道和、相羽達雄、酒井茂、長瀬脩、相馬孝、仲野辰男、小久江浅二、浜田茂明、芹沢博樹(3)
- 62 川手生巳也(5)、遠藤良司、高田桂造、勝山弘之、稲森茂、吉川隆士、小宮島夫、伊東守
- 63 関本和男、西田尚史、杉本幸貞、牧田善司、辻陽一、深沢正、加藤昭、浜田裕志
- 64 鈴木茂、矢部隆、大石脩而、河口正義、手塚重明
- 65 望月節、植田勇夫、針谷実、河口浩、藤波真五、鈴木俊彦
- 66 横山富士夫
- 67 松島玲子、笠井耕一、堀場千賀重
- 68 宮代省一、森野寿美子、大草敏郎、井野上慈子、吉田修、市川三世史、野田卓男(4)、遠藤藤弥、石山博、中村龍二、白石通子、齊藤晴彦、松永茂渡辺弘(3)、酒井力、山崎恭弘、富野寿(3)、友田勲、岩崎謙一郎、今村清彦(3)、宮崎次郎、川上貫三、佐藤利治
- 69 大井康生(3)、林洋右
- 70 丸山安彦(4)、野崎誠介、大室高根、内藤博次、佐藤允弥
- 71 松木茂夫、種茂雅之、石川正明、田中敬二
- 72 青木俊一郎、赤木政夫、有光一郎、安藤顯男、伊藤彰彦、池ヶ谷章、石川八州夫、石割浩司、大石典史、大村春樹、大村博、奥島治、加藤元彦、君島武男、小柳忠義、小山武夫、後藤宏、近藤守、佐々木勝彦、斎藤幸男、柴山欽伍、杉山親司、杉山光、鈴木斉、鈴木豊、鈴木良明、外山真佐樹、仲川信正、中西英一、西沢秀雄、西本昇平、羽山武、服部信司、松下勝朗、松永烈
- 73 松永文夫、松野猛、的場潔、三浦英夫、武藤至輝、望月篤望月公美、山下省三、山中博司、山梨由記、山本一雄、山本健史、山本昌秀、鷺巢丞男渡辺雅俊、後藤孝子、飯塚迪子、遠山敦子
- 74 井領正良、有川和子、上野拓山脇伊久男、木村敦、井出宏嗣(3)、大嶽隆司、井上進、萩原茂春、桑原英明、桑原伊玖子、笠井裕、佐野茂、近藤豊実、岩崎匡利、西山肇、塚本豊、花本栄二、内山明夫、田地川洋子
- 75 島口崇、玉井直子、秋山幹男
- 76 吉田伸一郎、水野雄三
- 77 青木興治、堀内淳司、滝田正良、鈴木としえ(4)
- 78 大石高志、田辺哲
- 79 三上嗣夫、後藤正秀
- 80 芹沢誠、平岩正史、安倍敏陽
- 81 新井宣夫、鈴木俊彦、鳥巢毅
- 82 中島京子、石川嘉和
- 83 塩沢潤、和田知行
- 84 平沼義幸、大塚全里子
- 85 池田良夫、松本孝、杉山真之
- 86 五十嵐寧、吉田美知子
- 87 池田良夫、松本孝、杉山真之
- 88 五十嵐寧、吉田美知子
- 89 池田良夫、松本孝、杉山真之
- 90 五十嵐寧、吉田美知子
- 91 池田良夫、松本孝、杉山真之
- 92 五十嵐寧、吉田美知子
- 93 池田良夫、松本孝、杉山真之
- 94 五十嵐寧、吉田美知子
- 95 池田良夫、松本孝、杉山真之
- 96 五十嵐寧、吉田美知子
- 97 池田良夫、松本孝、杉山真之
- 98 五十嵐寧、吉田美知子
- 99 池田良夫、松本孝、杉山真之
- 100 五十嵐寧、吉田美知子

(前頁下段より)

74 上野 拓

静岡を離れて三十七年にもなり数少ない友人との年賀状のやりとりのみとなつてしまつています。機会があれば同窓会にも出てみたいと思つています。

今年の一二月二日、静岡で八三期の同期会があり、約四十名の参加があり旧交を深めました。

88 塩沢 潤

▼住所が変りました。

270-01 流山市長崎一六〇八一

▼現在三井物産の關係会社、国際インフォメーションサービスの社長として出向中。

## 第48回 江の島会 予告

一、日時 九月三日(日)正午開会  
一、場所 江の島恵比寿屋旅館  
(35期永野清氏経営)  
一、会費九千円 女性七千円  
(記念写真代を含む)

年会費不要

一、連絡先 江の島會事務局  
(59期 奥沢 勝山塗装内)

(〇四五(301)五五四五)

一、追記：八月上旬頃ご案内いたしますが、遠近を問わず多数のご参加をお待ちしております。

# 静岡だより

## 阪神大震災の教訓

### 関東でも万全の備えを!!

阪神大震災は、昭和以降で未曾有の大惨事となりました。被害に遭われた方々に、心からお悔み・お見舞い申し上げると共に、二度と同様の悲劇が起こらない備えをすることが我々の務めではないでしょうか。

そこで、地震対策の先進県に住み、関連情報が集まり易い立場にもありますので、学術解説や建前論議などではなく、役に立つ実用ノウハウを、お伝えしようと思います。

最も対策が進んでいる静岡県です。県民に「自分の身は自分で守る」よう訴えているほどです。

水・食料・光熱源から薬・トイレに至るまで、最低でも三日、悪条件下では一週間の備蓄がないと、(後でいくら行政にモノ申そうと)その時に困るのは自分なのです。

### 【食料・水】

一週間分の備蓄をし、期限が来たら更新しましょう。

水は、水道水を保存し入れ換えるよりも、3年間保証の保存水缶が便利です。

乾パンよりも米のメシを—という人には、「アルファ米」がおすすめです。白米・五目飯・赤飯など種類もあり、お湯や水を注ぐだけで結構おいしいものです。5年間の保存が可能です。

炊事には、七輪型コンロが便利でしょう。意外と忘れがちなのが「火種」です。余ったマッチや使い捨てのライターは、各自の防災袋に収納しておきましょう。

### 【住まい】

有事の際の避難所は、東京では超すし詰め状態になるでしょうから、テントは必需品です。次に毛布が必要です。

### 【防災】

家庭用の防煙マスクを用意したい。枕もとには履き古したズック靴も。室内のガラス片・屋外のガレキから足を守ります。

大工道具とは別に、大きめのハンマーやバールを揃えておくと、人命救助に役立ちます。

### 【通信・連絡】

安否確認には、遠くの親戚を連絡先しておくのがコツ。被災地同士では連絡が無理でも、遠くへは(遠くからはダメ)可能性が高いものです。

10円玉も必需品。緑の公衆電話は停電になると10円玉しか使えません。

### 【その他】

意外と役立つのが健康保険証と運転免許証のコピーです。血液型や既応症・薬アレルギーなどを書き込んで、各自が常時携帯しましょう。

体育の先生が首にかけている笛も便利。

乾電池も必需品。大量保管が無理でも、ある程度を蓄えておいて「先入れ・先出し」すれば、無駄は省けます。

## 春の静岡野球は

### スリリングな打撃戦

第37回の静岡商との定期戦は、折からの春雨をおして、四月二十九日に草薙球場で行われた。

試合は、二枚看板のひとり錦織が静岡打線を1点に抑え、打線は静岡が繰り出す3投手を18安打とめつた打ちにして、16-1という史上最多得点で圧勝した。

### 【静岡対静岡定期戦】

静岡 0 0 0 0 0 0 0 0 1  
静岡高 3 2 0 4 0 0 2 5 X  
16

またOB戦では、山梨、萩原、大橋、服部(出場順)という懐かしいエースたちが、往年の名投手ぶりを発揮して、オールドファンの喝采を浴びていた。

### 【静岡対静岡OB戦】

静岡 OB 2 0 0 0 0 1 2  
静岡 OB 3 0 0 0 0 0 0  
3

さて、定期戦で史上最多の16得点を挙げた今年のチーム力はどうだろう。ネット裏すずめ諸氏の意見を参考にし、春の大会を振り返りながら素人分析をしてみよう。

定期戦の前々日に、春の高校野球中部地区大会の準決勝で、静岡は清水商業に1-2と敗れた。その静岡は決勝でも静岡清工を6-5で下し、中部地区優勝を飾っている。決して悪い出来というほどではない。

### 【中部地区大会準決勝】

静岡 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0  
清商 0 0 0 0 1 0 0 0 0 1 X  
2

ところで、静岡との定期戦で16点をもぎ取ってから、県大会に出場した静岡の試合展開に異変が起きた。スリリングな打撃戦に変わったのだ。

### 【春季県大会一回戦】

星陵 5 3 0 0 0 0 0 0 0 0  
静岡 3 1 0 2 5 0 0 1 X  
12

続く二回戦の相手は、西部1位で優勝候補筆頭の浜松商業。

最終的に2番手大石も打たれて4点を取られ、12-13とサヨナラ逆転された。

### 【春季県大会二回戦】

静岡 2 0 0 2 4 4 0 0 0  
浜商 2 0 2 0 4 1 0 0 4 X  
13

結局県大会は、浜商が沼津学園を12-0、富士宮東を10-6と下し「強打」で春を制したが、静岡にも優勝の目があったのでは—と残念な思いもする。

けれども、冷静になって資料をまとめてみると、浜商との戦力には、かなりの差があることが分かった。

大会終了後、浜商の上村監督は「本当の戦いはこれからだ」と、あっさりと言いつつ。つまり、五年ぶりの夏の甲子園が目標で、春の大会は、余裕の調整とでも言いたいのだろうか。悔しい。

静岡は打撃戦では遜色がないのは確かだが、投手陣が不安定だ。錦織と大石は、まだどちらがエースとは言えず、不思議と先発すると打ち込まれるケースが多い。

パンチが強い選手でも打ち合えばKOされることがあるように、野球でも打撃だけに頼った戦法は危険を伴う。相手に打たれないヒット・アンド・アウェー戦法をとりながら、必要に応じて強いパンチを繰り出せるようになれば、浜商とともに、夏の甲子園を目指す一番手に挙げられるだろう。

〔85期 吉水 廣〕

### 年会費の納入について

切なるお願い!

年に二回発行の関東支部会報は約三千二百名の会員に郵送しておりますが、年会費納入者は毎年約八百名、四分の一の皆様の拠金では同窓会の運営も厳しさを増すばかりです。

平成七年五月十日の役員会において、規約第2条・第15条に基づき、止むを得ず本年度より年会費を三千円とすることにいたしました。

同封の振込用紙で平成七年度の年会費三千円を早めに納入くださいますようお願いいたします。

### 「会報」編集子から

○毎号、バラエティに富んだ原稿を寄せてくださる方々に、心から感謝申し上げます。

同窓会員の絆をより強くとの願いをこめて、さらにより充実した誌面になるよう、一層のご協力をお願いいたします。

○原稿尊重を建て前としておりますが、加筆や訂正をさせていただく場合もあります。その点ご了承ください。

○提供の写真について、返却の必要があるかどうか書き添えていただければ幸いです。

○原稿依頼や掲載広告について、候補と思われる方を事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。

(U)



◎適格 追加型公社債投資信託 自動継続投資専用

# 太陽MMF

▶マネー・マネージメント・ファンド▶



※申込みの際は受益証券説明書をご覧ください。  
発行 専用 太陽投信委託

相 談 役 大石 巖 (53期)  
専務取締役 海野 幸雄 (71期)



## 新日本証券

本店/〒101 東京都千代田区神田駿河台3-11 ☎03(3219)1111

## 鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴 木 通 弘 (76期)

清 水 市 入 船 町 11-1  
TEL 0543(54) 3 0 1 5 (秘書課)

東京支店 〒105 東京都港区芝公園1-2-12  
TEL 03 (3432) 7 1 9 2

建築設計・監理

## 齋 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥 野 孝 (53期)

取締役社長 奥 野 進 (56期)

取締役副社長 奥 野 広 (58期)

本 社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル  
Tel 03-3842-6831 (代表)  
静岡事務所 静岡市安東 2-8-14  
Tel 054-246-9378

建築コンサルタント・設計施工業務  
建築に関する御相談は御気軽に……

## 株式会社 大 雄

取締役社長 奥 野 孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階  
TEL 03-3834-5331 (代表)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

## 齋 勝山塗装工業所

代表取締役 奥 澤 徹 (59期)

本 社 横浜市瀬谷区橋戸 3-25-6 〒246  
Tel 045-301-5545

大和工場 大和市深見 3706-1 〒242  
Tel 0462-62-0340 FAX 0462-62-0343

東松山工場 東松山市大字新郷88-47 〒355  
Tel 0493-24-2511 FAX 0493-24-2513

## 日本レーベル印刷齋

代表取締役 岩 井 平一郎 (57期)

本 社 静岡市国吉田3丁目1番1号  
TEL 054(262) 1 1 1 1 (代)

東 京 中央区京橋1-1-6越前屋ビル8F  
TEL 03(3272) 4 6 5 1 (代)

## 株式会社 富 士 越 株式会社 富士越化成

代表取締役 野 澤 正 憲 (64期)

東京都渋谷区東 2-14-9

TEL (3409) 3 3 4 2 (代)

TEL (3400) 9 5 4 1 (代)

富士通電子デバイス特約店・OA機器販社

## 東海デバイス株式会社

(旧社名 東海電気工業株式会社)

顧 問 清 水 照 彦 (61期)

本 社 東京都目黒区目黒4-6-33  
TEL03-3791-1181(代) FAX03-3715-1558

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科  
人間ドック

## 熱 函 病 院

院 長 小 坂 博 (67期)

住所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

総合広告代理店

## 株式会社 ア ド プ ロ

代表取締役 朝比奈 正 三 (67期)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル 3階  
TEL 03-3254-2171 (代表)

☺ 昼2時より夜11時まで診療 ☺

## タカラ歯科診療所

代表 フラ シナ 藁 科 名 雄 (87期)

東横線 中目黒下車徒歩5分

TEL 0120-376480